

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.1 (1961. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610101--001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610101--001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

# 三田學會雜誌

1961年 1月号

## 論 説

- 人口質をめぐる若干の考察……………寺尾 琢 磨 1
- ベティー労働価値説の一考察(1) ……茅野 泰 夫 14
- 主要繊維産業に於ける  
設備投資の計量分析による一考察……………高橋 房 二 28

## 資 料

- 第一次世界大戦の勃発とドイツ社会民主党……………飯 田 鼎 49
- ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(四ノ一)——

## 書 評

- エリック・ウォルドマン著『スバルタクス団の蜂起』……………飯 田 鼎 62
- ルドルフ・コウパー著『革命の失敗』……………飯 田 鼎 62
- P. ホグリーフ著『トマス・モアをめぐる人々』……………渡辺和一郎 66

## 新刊紹介

昭和35年10月24日  
昭和35年2月13日  
昭和35年1月1日  
第三種郵便物認可  
国鉄特別運送承認第一九〇三号  
発行(毎月)1日発行

54卷 **1** 号

新刊紹介

服部春彦『アンシャン・レジーム末期の 分益小作農について』	渡辺国広 72
石田祐六著『火災保険の研究』	庭田範秋 72
菊池勇夫編・九州大学社会法講座三十周年記念 『社会法綜説(上)・(下)——労働法・社会保障法・経済法——』	庭田範秋 73
平林康之著『戸坂潤』	野地洋行 74
中山伊知郎監修 エコノミスト編集『日本経済の成長』	佐藤保 75

人口質をめぐる若干の考察

一 人口質とは何か

量と質とは不可分の関係にある。一方の問題が解決すれば自ら他の一方に移行することは凡ゆる場合に共通である。人口問題についてもまた同じ。わが国は従来総人口の急増に悩まされ、その対策に腐心したが、最近十年間の出生率の急低下によって増勢は著しく鈍化し、危険は回避された感がある。そこで起ったのが人口質の問題である。

一般に質が問題となる理由は、同じ量もその内容のいかんによって価値あるいは効率を異にするからである。すなわち質とは内容の意味だが、人口の内容とは何かの点になると必ずしも明瞭でない。

第一に考えられるのはいわゆる人口構造である。同じ大きさの人口も体性・年齢・職業等々の点では異なる。例えばわが国の人口の年齢構造は終戦後激変し、幼少年の激減、老人の増加、とくに壮年の大増加を招来した。同じ一人の人間でも年齢によって活動力に大

人口質をめぐる若干の考察

寺尾琢磨

差あることは言うまでもないから、人間集団たる人口においてかような甚だしい年齢構造の変化は人口の活動力すなわちその効率を一変せしめたわけで、この意味で人口問題の焦点は量から質へ転化したともいえよう。

しかしかような解釈は一般的ではない。構造論は全部に対する部分の比を主題とするもので、この限りでは量の問題に外ならない。生産年齢人口が激増するから雇用機会を拡大しろとか、老年人口が殖えるから社会保障を強化しろといった諸問題は、いずれも特定年齢層の量的変化に対応するもので、従来も人口問題とは常にかる性質のものであったのである。そこで特にわれわれが人口質という場合には、これと全く異なった質を考えなければ無意味である。

上に人間の活動力が年齢の或る函数であることを言ったが、しかし年齢だけでなく体性も職業も同じでありながら各人の活動力の必ずしも等しくないことは誰しも知るところである。これはつまり人口を構成する各個人の間にある種の格差があるからで、それをつき